

のり海況速報 第4報 (23-4)

平成23年11月10日発行
千葉県水産総合研究センター
東京湾漁業研究所
千葉県農林水産技術会議

資料 のり海況調査 11/7：内湾(わかふさ)、内房海域(ふさなみ丸)
関東・東海海況速報(10/31-11/9)、東京湾口海況図(10/31-11/9)
拓南観測データ(11/1-9)、ふさなみ航走水温データ(10/31-11/9)
モニタリングポスト(11/7：国交省関東地方整備局)

【水温・塩分の状況】

内湾の表層水温(図1)はほぼ順調に降下し、19~20℃台前半になっています。しかし、4日頃には東京湾口への沖合水の流入がみられ、水温21℃以上の水塊が新富津漁場内まで波及していました。今回の調査においても水温20℃台後半の水塊が新富津から下洲にかけての漁場周辺まで波及しており、また、内房北部縦断面の水温・塩分分布をみても(図2)、新富津漁場付近の水深5m以深には水温21℃以上・塩分34以上の水塊がみられています。この状況が9日現在も継続していますので、今後もこの動きには注意が必要です。

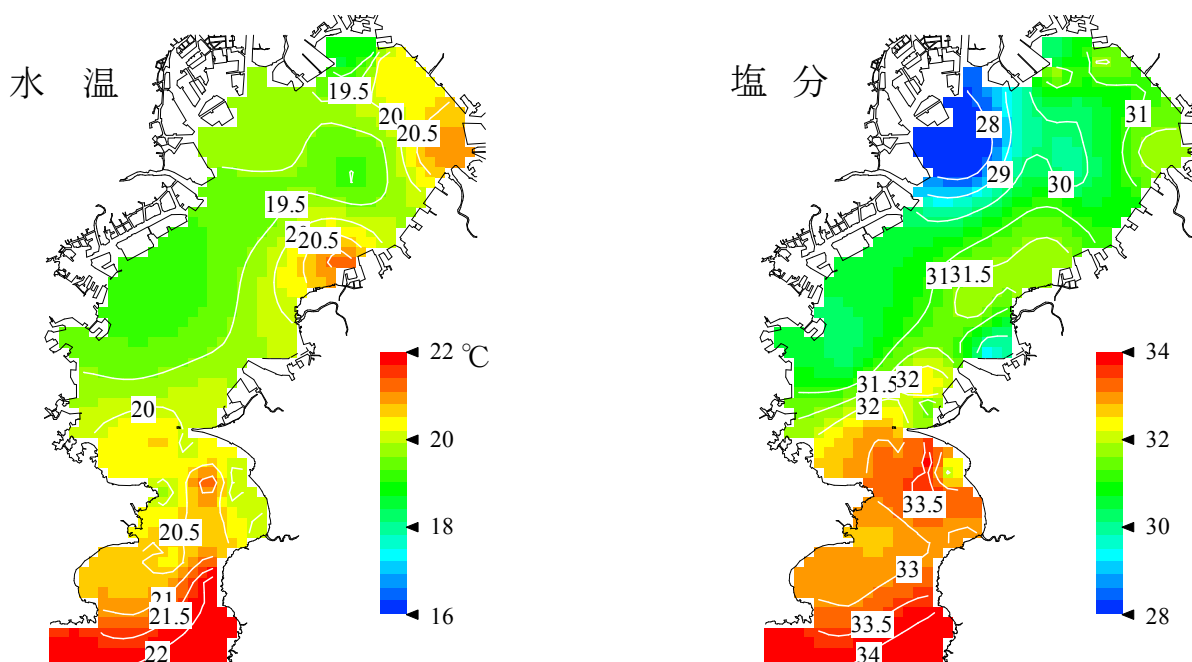


図1 表層の水温・塩分分布 (内湾～内房北部：平成23年11月7日)

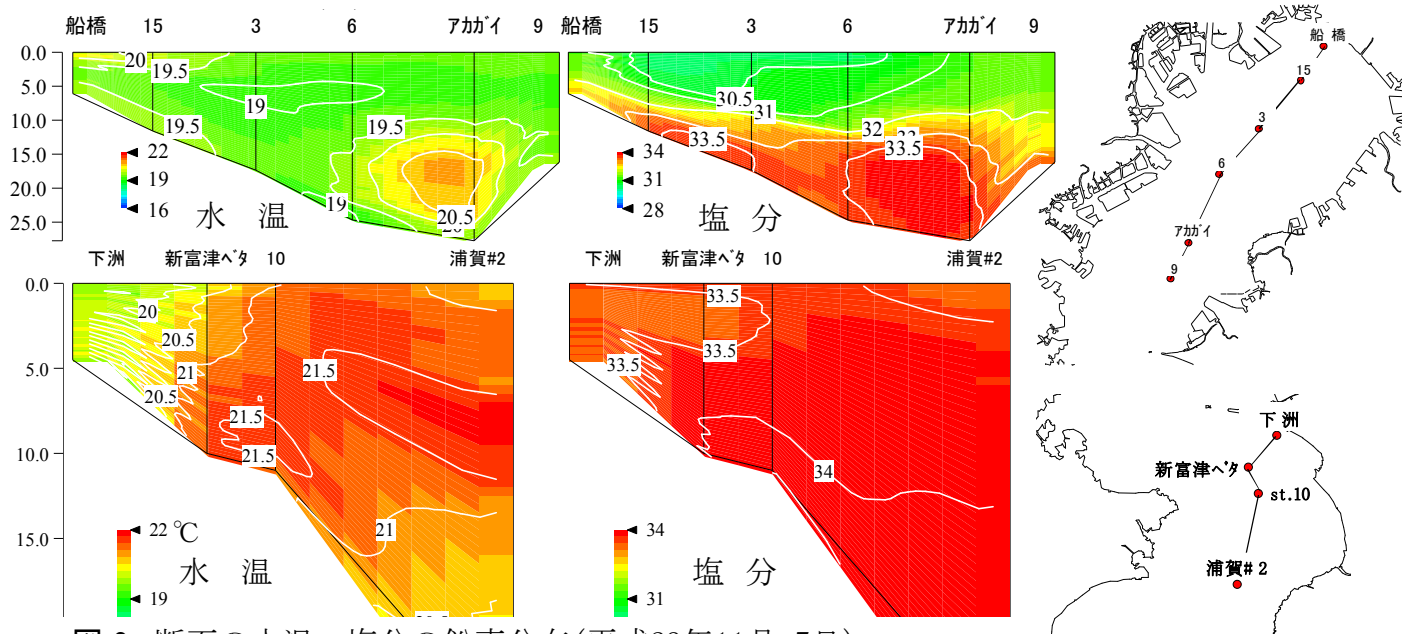


図2 断面の水温・塩分の鉛直分布(平成23年11月7日)

【赤潮・栄養塩の状況】

赤潮はほぼ内湾全域で再び発生し、pHは8.4~8.6に上昇し、透明度はほとんどが1m台まで低下しています。特に、北部および盤洲周辺では茶褐色を呈する程の濃い赤潮状態です。優占種は小型ケイ藻のキートケロスで、場所によってタラシオシラもやや多くみられています。

各地先の表層の栄養塩(図3)は窒素(DIN)・リン(DIP)とも非常に少なくなっており、特に、リン(図4)はノリの色素低下が懸念される濃度まで減少しています。さらに、大貫地先では窒素も激減しています。

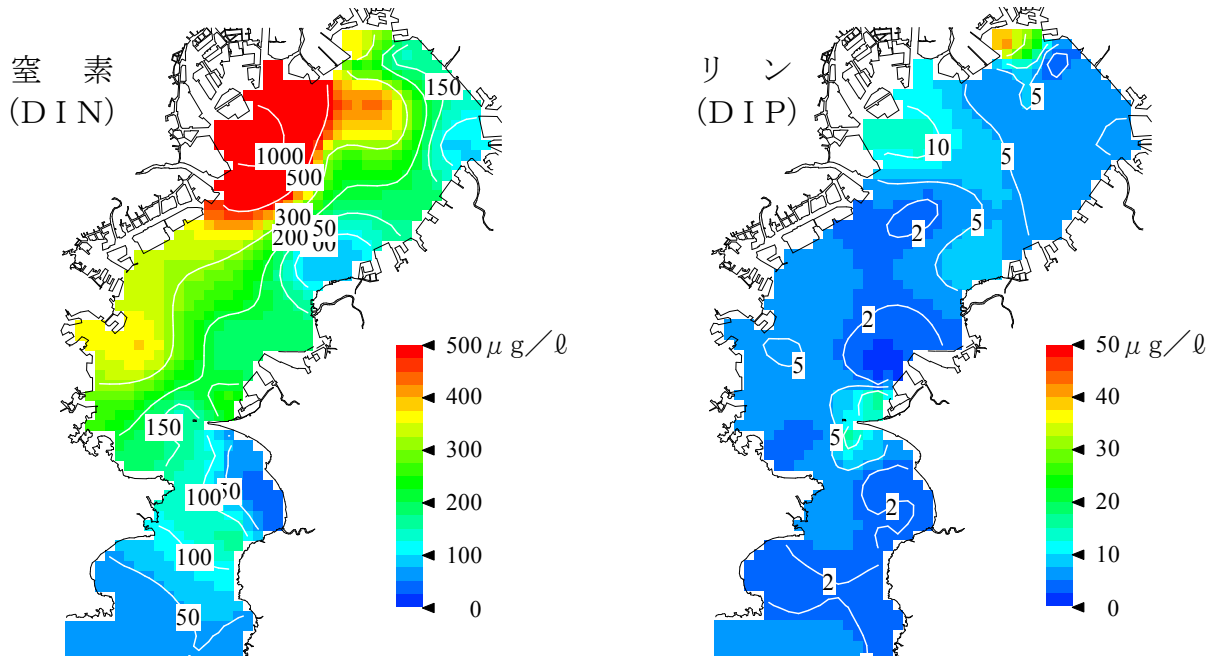


図3 表層の栄養塩濃度の分布 (内湾~内房北部：平成23年11月7日)

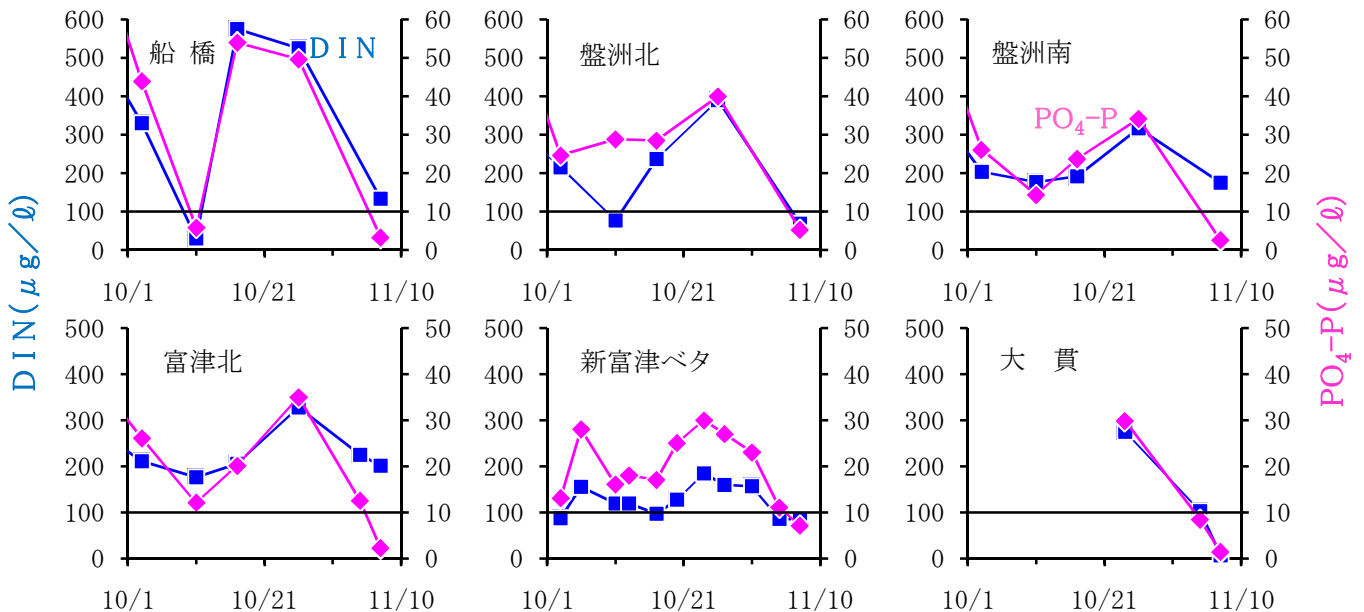


図4 各地先における栄養塩濃度の経過 (表層：平成23年10月1日~11月10日)
(図中の横線はノリの色落ちをひき起こすとされる目安の濃度)

川養殖場水温予報のお知らせ

今年も、各川養殖場(三番瀬, 盤洲北部, 盤洲南部, 富津岬北, 富津岬南)について、5日先まで表層水温を予報しています。パソコンまたは携帯の検索サイトで”川養殖場水温予報”で検索するか、下記アドレスを直接入力してご覧ください。

パソコン：http://www.pref.chiba.lg.jp/pbcbsuishi/cbtk/04tk-yohou/main_frame.html

携帯：http://www.pref.chiba.lg.jp/pbcbsuishi/cbtk/04tk-yohou/mobile_forecast.html